

平成 24 年 8 月 24 日作成 高井 良太

平成 24 年 8 月 27 日修正 高井 良太

第 9 回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング  
(ビーム物理研究会世話人会) 議事録

日時：2012 年 8 月 9 日(木) 12:00 - 13:30

会場：大阪大学豊中キャンパス 全学教育推進機構 B207

出席者(順不同・敬称略)：

安東(会長)、浜(副会長)、平田、鎌田、羽原、神保、黒田、小山、金田、後藤、境、小方、井上、想田、羽島、坂上、柏木、宮本、栗木、中村(剛)、宮原、南部、武藤、川瀬、阿達、中村(衆)、時田、西内、高井

司会：西内

書記：高井、時田

配布資料：

2012F-1：前回議事録

2012F-2：2012 年ビーム物理研究会・若手の会について

2012F-3：AAPPS 活動諮問委員会の活動について

議事内容：

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
  - A) ビーム物理研究会関連
  - B) 日本物理学会ビーム物理領域関連
  - C) 日本加速器学会関連
3. その他

## 1. 前回議事録確認

2012年3月25日に開催された第67回日本物理学会年次大会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)の議事録(配布資料:2012F-1)について内容確認が行われた。時間的な制約から内容の読み上げは省略されたが、特に意見・コメントはなく、承認された。

## 2. 報告・審議事項

### A) ビーム物理研究会関連

[研究会運営関連]

#### A-1. 次期会長・事務局の確認

次期の研究会会長として、現副会長の上坂充氏(東大)が推薦され、承認された。また、研究会会長は日本物理学会ビーム物理領域の領域代表も兼務すること、任期は2年であることが確認された。上坂氏の会長就任に伴い、研究会の事務局も東京大学上坂研究室に移転することが了承された。

次期副会長(領域副代表も兼ねる)については、会員から広く推薦を受け付けることになった。その結果に現執行部の意見も合わせて検討し、2013年3月に開催予定のビーム物理研究会総会において決定する。

#### 議論・コメント

- ・ 選考に当たっては地域的なバランスや年齢も考慮して決めたい。現会長・副会長の所属が東日本に偏っていることから、次は西日本を拠点とする人から選んではどうか?なるべく若い人の方が好ましい。

#### A-2. Web・サーバの管理について

宮本氏(広大)から現在のWeb・サーバ管理体制とWebデザインの変更、今後の運用に対する希望が説明された。

- ・ 2012年6月より、Webの管理は宮本氏と佐藤(政)氏(KEK)、サーバの管理は佐藤(政)氏で行っている。
- ・ 管理の移行に伴い、Webのデザインを若干変更した(フレームを使った配置へ変更、フレームは時代遅れとも言われるがHTMLのみで実現するため採用した)。うまく表示されない等の不具合があったら連絡してほしい。
- ・ Webへの情報掲載については会員からの依頼をメインとしているが、最近は依頼数が少ない。学会や研究会の予定など、掲載を希望する情報があれば是非積極的にメーリングリストに流してほしい。直接担当者に連絡してもよい。
- ・ セキュリティの都合上、現状では限られたドメインからしかWebの更新ができない。なるべく早く更新できる体制を作るため、Web管理の担当者をもう2・3人増やしたい。若手の協力を望む。
- ・ 今後も会員名簿をWebに載せたままでよいか?

⇒ 氏名と所属だけなので特に問題はないだろう。名簿の管理担当者と連絡を取り、定期的に情報を更新するよう努める。

### A-3. 会員名簿の管理について

現名簿管理担当者の中村(剛)氏(JASRI)より、現在の名簿管理について説明があった。

- 現在は JASRI の加速器部門事務室が入会窓口となっている。入会申込書の原本は事務室に保管されており、そのコピーが管理担当者に渡る。
- 担当者は申込書のコピーから紹介者を確認し、主観で入会の是非を決めている。入会不可となることは殆どない。
- 入会が決定したら事務局にその旨を連絡し、会員名簿の原簿(Excel ファイル)に掲載する。また、本人のメールアドレスを研究会のメーリングリストに追加する。
- 退会や所属変更の連絡はメールで可能となっているが、古いままの情報が散見される。特に、使えなくなったメールアドレスをリストから外すのが面倒。
  - ⇒ 異動の多い年度末にリマインドを流し、定期的に情報を更新するようにはどうか？
  - ⇒ 宮本氏と原簿の情報を共有し、年に 1 回位の頻度で Web 上の名簿も更新するようにした方がよいだろう。
- 研究会発足以来、名簿の管理は中村(剛)氏が担当している。そろそろ担当者を交代してはどうか？
  - ⇒ 最近の入会の件数が少ない(年に 10 件程度)のでさほど負担にはなっていないが、JASRI の若手を中心に後継者を選定したい。

### [研究会合関連]

#### A-4. 2012 年ビーム物理研究会について

栗木氏(広大)より、配布資料：2012F-2 に基づいて今年度のビーム物理研究会の企画状況について説明があった。

- 場所：広島大学東広島キャンパス、学生会館
- 日時：2012 年 11 月 29 日(木) 9:00 - 30 日(金) 12:00
- LHC 実験と ILC 計画に関する 2 件の招待講演を予定している。講師はそれぞれ川越氏(九大)と早野氏(KEK)。
- 宿泊先は各自で手配すること。

#### A-5. 2012 年ビーム物理若手の会について

引き続き、栗木氏より配布資料：2012F-2 に基づいて今年度のビーム物理若手の会についての説明があった。

- 場所：宮島 杜の宿

- ・ 日時：2012年11月30日(金) 17:00 - 12月1日(土) 16:00
- ・ 新竹氏(OIST)による電磁気学に関するチュートリアル講演を予定している。
- ・ 詳細な内容はこれから決めるが、前回に倣ってショートオーラルやポスター発表、研究室紹介等を行う予定。参加申し込みと一緒に内容の提案も受け付ける。
- ・ 実行委員は栗木氏、宮本氏、佐々木氏、岡本氏(いずれも広大)の4名。特に担当は分けず、4人で研究会と若手会の企画に当たる。
- ・ 講師の旅費は負担する。学生の旅費もある程度は確保している。
- ・ 前は担当の東北大学側で研究会・若手会のホームページをそれぞれ用意した。今回からはビーム物理研究会のホームページに研究会行事として掲載するようにし、情報の集約化を図りたい。
  - ⇒ 過去の研究会ホームページはどうするか？
  - ⇒ リンク切れ等を整理し、同じホームページ上に集約したい。
- ・ 次々回(2013年度)の開催場所等は、春の物理学会の会期中に行われるビーム物理研究会総会で決定する。事前に関係者で申し合わせておく必要がある。

[その他]

報告・議論とも特になし。

B) 日本物理学会ビーム物理領域関連

[領域運営関連]

B-1. 次期領域運営委員について

現領域運営委員の高井氏(KEK)の後任として、分子研 UVSOR の阿達正浩氏が紹介され、承認された。任期は2013年4月から2014年3月までの1年間。現在の体制は次のとおり。

期間	領域運営委員
2011年5月～2012年3月	中村 衆 (アドバイザー)
2011年10月～2012年9月	西内 満美子 (現委員)
2012年4月～2013年3月	高井 良太 (現委員)
2012年10月～2013年9月	時田 茂樹 (引き継ぎ中)
2013年4月～2014年3月	阿達 正浩

[大会関連]

B-2. 第68回年次大会の概要と開催までのスケジュールについて

次回の年次大会までの主なスケジュールが確認された。次回の年次大会は、2013年3月26日から29日まで、広島大学東広島キャンパスにおいて開催される。重要な締め切り日は次のとおり。

- ・ 招待・企画・チュートリアル講演、シンポジウム企画申し込み： 11月13日(火)
- ・ インフォーマルミーティング申し込み： 11月23日(金)
- ・ 一般講演申し込み(Web)： 11月25日(日)
- ・ 講演概要集原稿提出： 1月18日(金)

### B-3. シンポジウム・招待講演の提案状況

今回の年次大会におけるシンポジウム、および招待講演の提案状況が説明された。随時募集中(正式なアナウンスは学会誌 10月号に掲載予定)だが、今のところ提案はなし。最近の年次大会で企画・検討されたテーマとしては、医療応用、ビーム冷却、次世代放射光源等がある。前回の年次大会では、領域2(プラズマ科学)・理論核物理領域・実験核物理領域と共催で「極限高強度場の科学」と題した合同シンポジウムを行った。テーマだけでも良いので、是非積極的に提案してほしい。

#### 議論・コメント

- ・ 産業利用や小型加速器はどうか？
- ・ ビーム物理分野の複合性を利用して、是非多くのシンポジウムを企画したい。
- ・ 学会への申し込み期限は 11月13日(火) となっている。

### B-4. 他領域との合同セッションについて

他領域との合同セッションについて説明があった。シンポジウム等と同じく、合同セッションのテーマも随時募集中である。領域2(プラズマ科学)とは毎年主催領域を交代して合同セッションを設けることになっており、今年度はビーム物理領域が主催となって企画する。合同セッションへ参加するには一般講演の申し込み時に参加を希望すればよいが、前回の希望件数は素粒子実験領域とのセッションに 1件、素粒子実験・原子核実験領域とのセッションに 1件、領域2とのセッションに 5件であった。領域2とのセッション以外は件数が足りず、不成立となった。

#### 議論・コメント

- ・ 領域2は世話人の数が多く、内部でもめることもある。レーザー・プラズマ加速関係でセッションを企画するなら、早めに向こうの領域運営委員と連絡をとって進めた方がよい。

### B-5. 一般講演について

過去 8年間に於ける春の物理学会での一般講演数の推移がグラフで示された。前回大会におけるビーム物理領域の講演数(合同セッションを含まない)は 70件で、全領域中最少であった。講演数増加に向けた努力をお願いしたい。

#### 議論・コメント

- ・ 合同セッションでは相手領域からの講演もビーム物理領域の一般講演としてカ

ウントされるため、より多くのセッションを組むことで講演数の増加が期待できる。勿論、ビーム物理領域からの純粋な講演数を増やすことが第一である。

- 講演者の所属先を見ると、KEK や JASRI 等の研究所からの講演が少ない。
  - ⇒ 物理学会は学生の発表がメインという認識があり、研究者の多くは加速器学会や原子力学会等の他の学会で発表する傾向がある。
  - ⇒ KEK で実験している学生は多いが、その成果を発表する際は所属が各大学となる。こういった事情も関係しているのではないか？
  - ⇒ KEK の研究者は、実験内容や歴史的な都合上、素粒子実験や核物理実験などの他領域で発表している人も多い。合同セッションをうまく利用すれば彼らを取り込めるのではないか？
- できれば XFEL や ERL の利用者側も取り込みたい。
- 領域 10 (X 線・粒子線) では中性子や陽電子も扱っているため、合同セッションを企画しやすいのではないか？
- 試行期間の新領域時代は、講演数が毎回 100 件を超えていたはず。今でも各人の努力次第で同レベルまで増やせるのではないか？
  - ⇒ 確かに講演数は多かったが、内容の乏しい講演も多かった。件数を増やすことも重要だが、内容が伴わなければ本末転倒である。
- 企画した合同セッションの情報を加速器学会のメーリングリストにも流し、より多くの関係者に参加を呼び掛けてはどうか？
- シンポジウムの提案も加速器学会メーリングリストに流してみてもは？

#### B-6. 若手奨励賞について

後藤氏(放医研)より、昨年度のビーム物理領域若手奨励賞受賞記念講演の報告、および今年度の選考委員の紹介があった。昨年度の受賞記念講演は、例年どおり年次大会の会期中に素粒子実験領域との共催で実施した。今年度の選考委員は、大見(KEK)、神門(JAEA)、栗木(広大)、後藤(放医研・委員長)、中村(剛)(JASRI)、鷲尾(早大)の 6 名。応募の締め切りは 2012 年 8 月 3 日(金)。現時点で 3 件の応募が来ている。選考委員間でメールにより協議し、9 月末までに受賞者を決定する。37 歳以下の若手を対象としており、2 名まで授与可能。

#### B-7. 2012 年秋季大会(横浜国立大学・9/18 - 21)での合同シンポジウムについて

秋の物理学会で開催される合同シンポジウムについてのアナウンスがあった。ビーム物理領域では秋季大会での一般講演を行っていないが、他領域との合同シンポジウムは開催できる。準備時間の不足から主催シンポは企画できなかったが、領域 1 (量子エレクトロニクス)、領域 2 (プラズマ科学・主催) との合同シンポジウムを 1 件企画できた。テーマは「負イオン科学の新展開 ―負イオン生成の物理とその応用技術―」で、加速器からは小栗氏(JAEA)の講演が予定されている。開催場所は横浜国立大学の FA 会場(京産大ではないこと

に注意)で、日時は 2012 年 9 月 19 日(水) 13:30 - 17:00。物性領域との交流を深めるためにも、是非多くの方に参加していただきたい。

[その他]

#### B-8. AAPPS 活動諮問委員会の活動について

羽原氏(阪大)より、配布資料：2012F-3 に基づいて AAPPS(アジア太平洋物理学会連合)活動諮問委員会の活動について報告があった。プラズマ物理・プラズマ応用物理分野の更なる活性化を目的として、領域 2(プラズマ科学)からビーム物理領域へ参加要請があったもの。2012 年 4 月以降の主な活動内容は次のとおり。

- Maxwell Prize や Alfvén Prize に相当するプラズマ分野での賞を AAPPS 本体として設けるよう、理事会に諮った。
- 2013 年 7 月に幕張メッセで開催される APPC12(アジア太平洋物理会議)のプログラム委員会、組織委員会が随時行われている。
- プラズマ分野からの Plenary/Tutorial Talk としては、ノーベル賞受賞者クラスの講演や LHC 実験関係の講演を考えている。9 月中に決定。
- APPC12 の Topical Session には、ビーム物理に関連するキーワードも含まれている。一般講演の募集期間は 2013 年 1 月～3 月末を予定。  
⇒ 前回の APPC では Accelerator Physics のセッションもあったが、今回はなくなっている。我々からの働きかけが必要。

#### B-9. PTEP の創刊について

黒田氏(産総研)より、PTEP(Progress of Theoretical and Experimental Physics)の創刊と概要についての説明があった。

- これまでの PTP(Progress of Theoretical Physics)に高エネルギー実験やビーム物理、ビーム診断等の分野を加えて創刊したもの。日本発の国際的ジャーナルを目指す。
- Web 出版のみでオープンアクセス。著作権は著者に帰属する。著作物の利用規定は CC BY に準ずる。
- 基本的には掲載料が必要だが、高エネルギー物理分野なら SCOAP という国際予算で賄われる。それ以外の分野でも、所属組織からサポートが受けられる場合がある(KEK 等)。
- インパクトファクターは 2.0 以上を期待している。
- PTEP の出版を手掛けている Oxford University Press が国際会議のスポンサーを始めた。ビーム物理だけでなく、他の分野の会議でもブースを出したりチラシを配ることで PTEP の宣伝をしている。
- 2012 年 9 月 3 日(月)から投稿受付を開始し、2013 年 1 月から月刊となる。是非

多くの投稿をお願いしたい。

C) 日本加速器学会関連

[その他]

報告・議論とも特になし。

3. その他

3-1. 次回の総会・世話人会について

次回の総会は 2013 年 3 月の日本物理学会年次大会(広島大学)、世話人会は 2013 年 8 月の日本加速器学会年会(名古屋大学)の会期中に行うことが確認された。

以上